



# 神内っ子

笠岡市立神内小学校 学校だより

令和4年2月16日 No.26

【笠岡東中学校区小中一貫教育 教育目標】

郷土を愛し、夢の実現に向けて高め合い、  
たくましく生きる児童・生徒の育成

- ・進んで学ぶ子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子
- ・ふるさと大好き神内っ子



## 子どもたちのつながり



職員室に小太鼓を叩く音が聞こえてきました。音楽室に行くと、2年生が「がっきでおはなし」の単元を学習していました。4種類の4拍子のリズムを2つずつ選んで、ペアで話をしているように続けて演奏するという活動で、前に出て発表をしていました。緊張したのか、2回、3回やっても、後で演奏する児童が拍通りにうまく入れませんでした。すると、「タンタタタタンだよ。」と、方々で声が上がると、「こうやるんだよ。すぐにできるよ。」と、リズムを教える児童も出てきました。それでもうまくいかなかったため、そのリズムをみんなで一緒に練習することになりました。何回か練習して、そして本番。固唾を飲んで聞き入る中、うまく演奏が続くと、拍手喝采。温かい雰囲気の中で、子どもたちの心の中に仲間を思うやさしさが確かに育っていることが感じられ、とても幸せな気持ちになりました。

その数日後の国語の授業では、「おすすめの遊び」を見つけて、遊び方を分かりやすいようにノートにまとめ、みんなの前で発表をしていました。おはじきを机に並べてはじいて得点付ける遊びを紹介した児童もいれば、机の上に紙でトンネルのようなものを作り、その片側から割り箸を指ではじいてトンネルから飛び出す遊びを発表する児童もいました。実際に教卓でやって見せると、「やりたい」「やらせて」と声が上がって、子どもたちの心の中に火がつかしました。質問したり、それに答えたりして、コミュニケーション力も培われています。

## 『互いの違いを認め合う人間関係づくり』①



### 【お知らせ】

タブレットや教科書、ノートなどの落下を防ぐために、3学期から試験的に2年生の児童用机に、拡張器具を取り付けています。

令和3年度は、学校経営目標として、『「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくり』と、『互いの違いを認め合う人間関係づくり』を推進してきました。

後者について、各学級では、「ふわふわ言葉」や「〇年生のステキなところ」などを教室に掲示したり、帰りの会に「ほめほめタイム」という時間を設けて、児童のよさを発表したりして、お互いに認める活動を行っています。周りの人を大切にして、協力して生活していくことは、自立した社会生活を送っていく上でとても大切なことです。学級での班活動、縦割り班活動、登校班、クラブ活動、委員会活動など、学年や性質が異なる人と関わる体験から、大切なことを学んでいます。そもそも人は自分とは違う考えや性質をもった生き物で、どんな接点をもって一緒に活動(仕事)をしていくかということが大事になってきます。まずは、相手のよさを見つけて大切にする気持ちからスタートです。

1月の校内アンケートでは、「自分や友だちのことを大切にしている」、「友だちのよいところを見つけ、いろいろなことに協力して取り組んでいる」と回答している児童は、それぞれ96%、88%でした。「とても」と回答した児童は80%を越えていることから、多くの児童がお互いのよさを認めて大切に生活していることが分かります。この割合がもっともっと大きくなるように、丁寧に子どもたちと関わっていきたいと思います。

2月も半ばを過ぎ、学年の締めくくりの時期です。この一年で、人としてどのような成長があったのかを振り返り、次の学年でどう伸ばしていくのかをしっかりと考えてほしいと思います。